

殿町夜光線において路上駐停車の抑制対策に関する 社会実験を実施します

令和5年11月9日(木)から4か月間、殿町夜光線において、路上駐停車の抑制対策に関する社会実験を実施します。

この社会実験は、川崎臨海部における大型車の路上駐停車抑制に向けた対策の検討を目的に、昨年7月と11月に実施した社会実験の結果（別添【参考資料】）を踏まえ、物理的な路上駐停車抑制対策の実装効果や、実験区間に設置する仮設トラック待機所の利用状況等を把握し、今後の路上駐停車抑制対策につなげるものです。

あわせて、物流業界の2024年問題を踏まえ、立地企業やドライバーへの路上駐停車抑制に係る意識啓発も行います。

社会実験を実施する殿町夜光線は、大型車の荷待ちによる時間調整やドライバーの休憩等によって、路上駐停車が恒常的に発生しております。今後の交通量の変化により、交通渋滞や交通事故の発生が懸念されるほか、駐停車車両から排出される排気ガスやごみのポイ捨てによる地域環境への影響への対応も必要となっております。



写真1 殿町夜光線の路上駐停車

1 日程 令和5年11月9日（木）から令和6年3月8日（金）まで

2 場所

- ・実験区間 殿町夜光線 かわさき南部斎苑前～運輸支局前交差点 上下線（詳細は図2）
（片側 約760m、上下線合計：約1,520m）
- ・大型車誘導場所
 - 1) 阜橋水江町線沿線の大型車駐車場（デイリーヤマザキ店舗前）
 - 2) 殿町夜光線沿線の仮設トラック待機所（詳細は図5）
（入江崎水処理センター西系施設とかわさき南部斎苑との間）
（仮設トイレ、自動販売機等を設置）※空き状況をwebで確認できます
 - 3) 東扇島の川崎市荷待ちトラック待機所 2か所



図1 位置図（昨年度の社会実験と同一区間）

仮設トラック待機所の空き状況が、二次元バーコードから、Webカメラの映像で、リアルタイムに確認できます。



写真2 Webカメライメージ



二次元バーコード
（11月9日以降有効）

3 社会実験の目的と実施内容

	目的	実施内容
①	物理的な路上駐停車抑制対策の実装効果確認	実験区間の路肩にラバーポールを実装し、路上駐停車の抑制効果とラバーポールの維持管理性を確認 (図2、3)
②	立て看板による駐車抑止と仮設トラック待機所への誘導効果確認	仮設トラック待機所の場所と空き状況を案内する二次元バーコード付きの立て看板を設置し、誘導効果を確認 (図4)
③	仮設トラック待機所の利用状況等の把握	実験区間内に仮設トイレや自動販売機等を備えた仮設トラック待機所を設置し、利用状況および利用者アンケートにより利用目的や利用時間等を把握 (図5)
④	<ul style="list-style-type: none"> 路上駐停車抑制に対する立地企業やドライバーへの意識啓発 2024年問題が路上駐停車等へ与える影響の基礎調査 (翌年度以降の状況変化を把握するための基礎データ) 	<ul style="list-style-type: none"> 路上駐停車抑制に向けた企業等への働きかけ・協力依頼 交通管理者と連携した、路上駐停車抑制や仮設トラック待機所の利用促進に係る啓発 2024年問題に対する事業者の取組状況を調査し、路上駐停車や仮設トラック待機所の利用状況との相関分析に向けた基礎調査を実施



図2 社会実験の実施対象区間

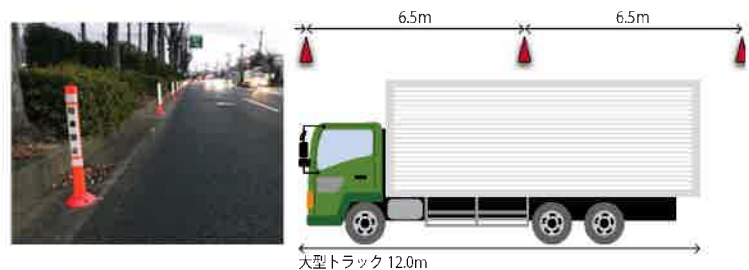


図3 路上駐停車抑制対策(実装)イメージ



図4 立て看板、Webカメラ



仮設トイレ(バイオトイレ)イメージ

トイレのない待機所への展開を見据え、バイオトイレ(※)を使用して実験を実施

(※) 排泄物と木質材を混ぜることで、微生物の働きで分解・処理するため、汲み取り不要で、下水管への接続が困難な場所への設置が可能、臭気も少ない

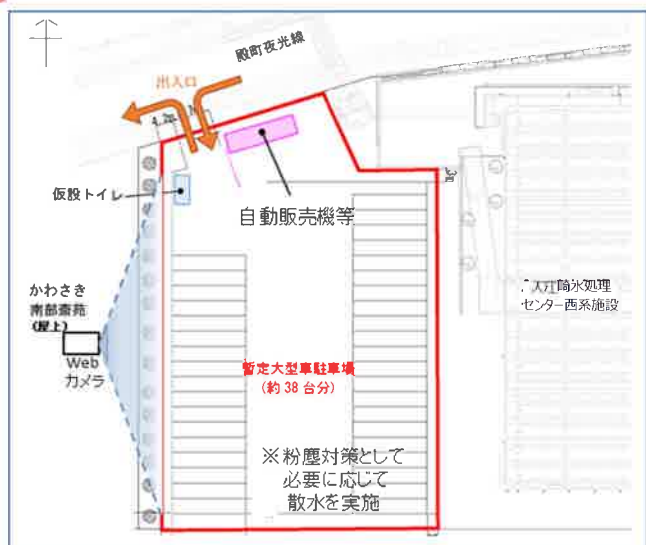


図5 仮設トラック待機所イメージ

【問合せ先】

川崎市臨海部国際戦略本部拠点整備推進部 荒木
 電話 044-200-3788

殿町夜光線における路上駐停車の抑制対策に関する 社会実験の結果をお知らせします

川崎臨海部の幹線道路の路上駐停車対策の検討にあたり、殿町夜光線において、2回にわたり社会実験を実施しましたので、その結果をお知らせします。

1 社会実験概要

- (1) 実施期間 1回目 令和4年 7月14日(木)～ 7月28日(木) (15日間)
2回目 令和4年11月17日(木)～ 12月15日(木) (29日間)
- (2) 実施場所 殿町夜光線 かわさき南部斎苑前～運輸支局前交差点 上下線合計約1,520m
- (3) 実施内容
 - ・路肩へのカラーコーン設置による物理的な路上駐停車の抑制対策の実施
 - ・東扇島の既存トラック待機所の周知と誘導
 - ・実験区間にトイレや店舗を備えた仮設トラック待機所を設置(2回目のみ)
 - ・路上駐停車や仮設トラック待機所を利用したドライバーへのアンケートによる実態調査の実施

2 社会実験結果

○物理的な路上駐停車抑制対策の有効性を確認

別紙1参照

- ・実験区間では、路肩へのカラーコーン設置により、実験前と比較して路上駐停車台数が約9割削減しました。

○目的地から遠いトラック待機所は利用されない傾向を確認

別紙1参照

- ・1回目の社会実験では、既存トラック待機所を周知しましたが、遠方にある既存トラック待機所の利用台数に大きな増加はなく、路上駐停車車両が近隣に分散しており、目的地から遠いトラック待機所の周知・誘導の効果は確認できませんでした。
- ・アンケート結果からも、近隣の待機所なら利用するという意向が確認されました。

○仮設トラック待機所の利用時間は深夜から早朝の長時間及び日中の短時間が多い

別紙2参照

- ・2回目の社会実験における仮設トラック待機所の利用状況は、深夜から早朝に利用して朝8時頃に出発する車両が多いこと、及び日中は、1時間程度の利用が多いことが確認されました。

○実験区間内の仮設トラック待機所は、殿町夜光線など近隣の駐停車車両が多く利用

別紙3参照

- ・2回目の社会実験では、実験前、殿町夜光線に路上駐停車していた車両が仮設トラック待機所を多く利用したほか、これまで川崎市以外に駐停車していた車両の利用も確認されました。

○路上駐停車の目的は「時間調整」と「休憩」が多い

別紙3参照

- ・アンケートにより、路上駐停車している理由や仮設トラック待機所を利用した理由は、時間調整のほか休憩や食事、仮眠等であることが確認されました。

○トラック待機所には、トイレ、コンビニ、ごみ箱等、長時間運転するドライバーに向けた休憩のための機能が求められている

別紙3参照

- ・路上駐停車や仮設トラック待機所を利用したドライバーへのアンケートでは、トラック待機所への併設を望む機能としてトイレ、コンビニ、ごみ箱の要望が多いことが確認されました。

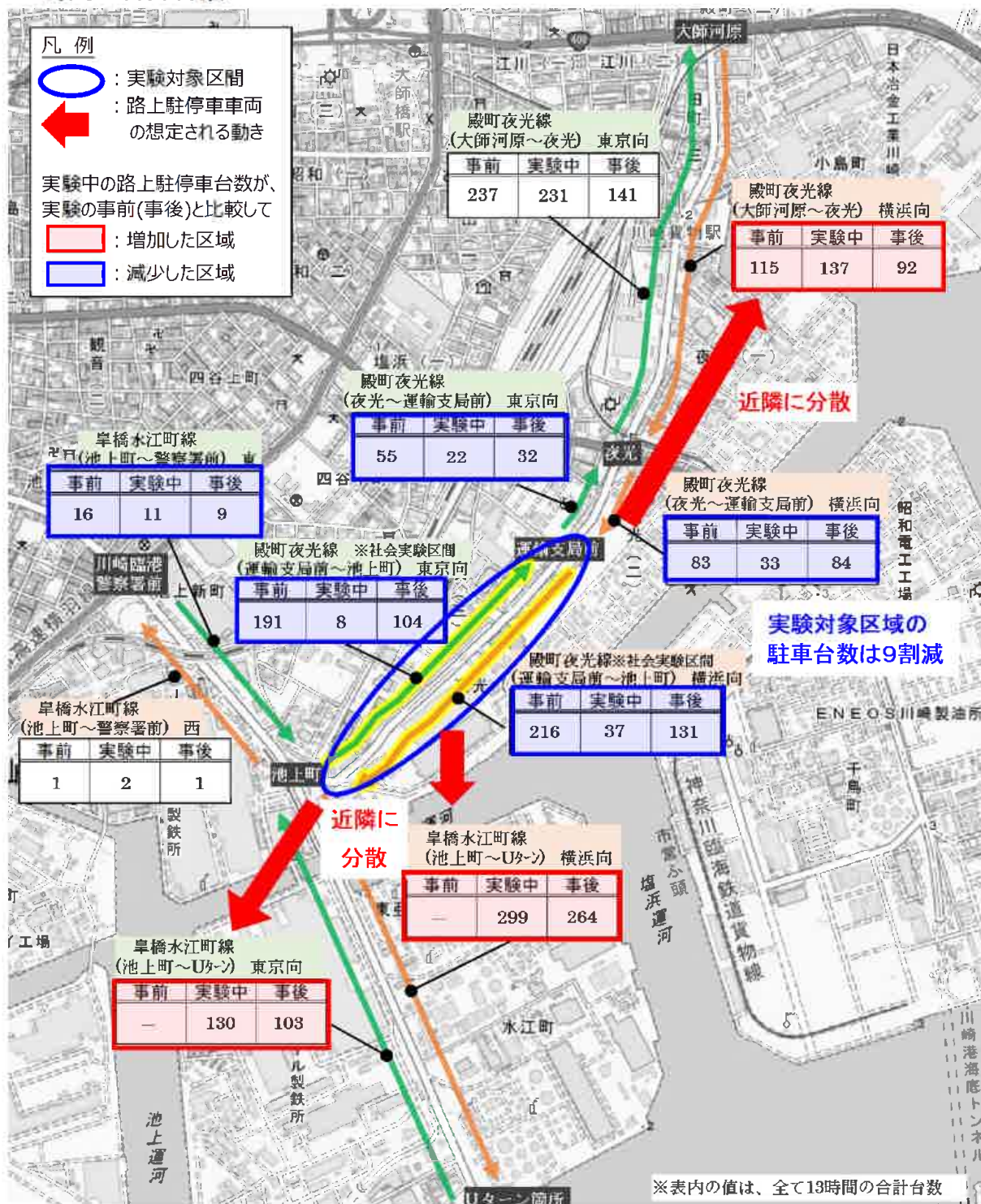
3 今後について

今回の社会実験の結果を踏まえ、路上駐停車の抑制に向けて、関係者と連携しながら効果的な対策について取り組んでいきます。

【問合せ先】

川崎市臨海部国際戦略本部拠点整備推進部 荒木
電話 044-200-3788

13時間の合計台数



結果のまとめ

- ・実験区間では、路肩へのカラーコーン設置により、実験前と比較して路上駐停車台数が約9割削減した。
- ・実験対象の隣接区間では、実験中の路上駐停車台数が増加した区間があった。
- ・トラックの誘導先となる遠方の東扇島の待機所の利用台数に大きな増加は確認されなかった。



令和4年12月9日(金)の利用状況(利用台数34台/日)

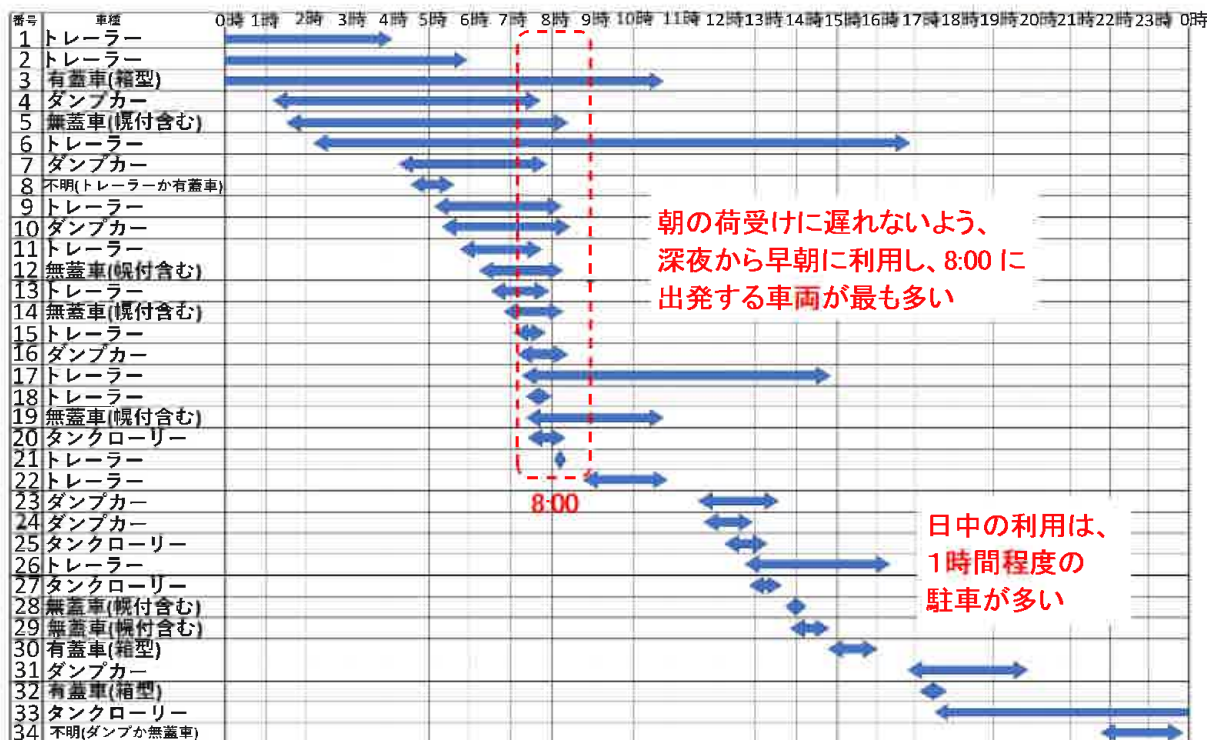


写真 仮設トラック待機所の利用状況
 (運転手がスマートフォン等により、トラック待機所の空き状況を確認できるよう設置した Web カメラの映像)

(参考)

仮設トラック待機所の週間利用台数の推移(木曜日～水曜日の合計)



